



東京金山会通信 No.42

東京金山会 広報担当 (藤山善夫)
☎080-5525-0435
✉fujijama.d.siren@ae.auone-net.jp

「かねやま市」について

新たな取り組みとして開始した「かねやま市」。これまで計3回、町の関係者の方々のご協力もあり、順調に開催をかさねています。おいしい産品が並ぶ秋のシーズンに向け、9月に会員向けに発送する予定の総会報告集(約300部)内でも、あらためてご案内しPRさせていただきます。



のぼり旗やブースの設置も大分定着してきました。家族連れで来訪された会場近隣の方々、「つや姫」10キロ購入のリピーターの方など、たくさんのお客さまに会場へ足を運んでいただいております。



「かねやま市」を開催する担当者としては、クール便などの当日着の荷物の到着が、オープン間際の状況になりがちなど、開催してみて分かる課題も発生しています。しかしメンバー全員で知恵を出し合いながらその都度解決し、次回開催がより良いものとなるよう取り組んでまいります。

開催初日は阿部豊春さん(荒屋)生産の「紅秀峰」が届き、即売。阿部さんの「佐藤錦」は令和4年度「もがみさくらんぼ品評会」で最優秀賞を受賞しています。



No.200 「森の子ども図書コーナー」 交流サロンぽすと内



「こうもりのルーファスくん」
(トミー・ウェンゲラー/作絵
BL出版)

普段は夜中に生活しているこうもりのルーファスくん。外が明るいうちはほら穴の天井にぶら下がって寝てばかり。でも夜ともなれば外に飛び出しごちそう探し。ある夜、野外映画会で初めてカラー映画を見ました。こんなにきれいな色を見たのは初めて！昼間の世界にあこがれて眠らずに朝を迎えます。初めて見る朝陽、その美しさに見とれてしまいました。そしてルーファスくんは絵具で耳を赤く、爪は青く、足は紫色に、自分をきれいに塗りがえしました。そのままごきげんで、日の光のなかへ飛び出していったのですが…。それがきっかけで招いたトラブルと新たな出会いとは。



※()内作者名

今月は3冊!

- 空をこえて七星のかなた (加納朋子)
- 夜に星を放つ (窪美澄)
- お医者さんが教える老けない習慣 (糸井由里恵)

「図書室だより」

中央公民館内 9:00 ▶ 16:00

「その本は」
(又吉直樹/ヨシタケシンスケ
ポプラ社)

「わたしは本が好きだ。今までたくさん本を読んだ。しかし、目が悪くなり、もう本を読むことができない。だから世界中をまわって『めずらしい本』についての話を聞いてきてくれ。そしてその本の話をわたしに教えてほしいのだ。」
命令に従った2人の男は夜毎、王様に「その本は…」と交互に語る。
さて、その話とは…?



「#真相をお話しします」
(結城真一郎/新潮社)

現代風なテーマを題材に、ソフトとする小気味よいミステリーです。最後にどんなシーンでん返しがあるのか、どんな事実が待ち受けているのか、伏線もしっかり仕組まれていて、読み終わった後はなるほど!となりませう。短編集なので読みやすくどなたにもおススメできる一冊です。タイトルのとおり真相が衝撃の5作品です。



現在、図書室を改善センター内に準備中です。本を借りたい方は、教育委員会にお電話ください。秋の夜長のお供にお気に入りの一冊を見つけてみてはいかがでしょうか。 ☎52-2902

「小さな拠点づくり事業」



集落支援員
栗田 伸一

「拠点」には物理的なものと、精神的なものがあるようです。「拠り所」と言い換えれば、どちらの意味としても解釈できるでしょうか。さて、毎週月曜日の午前中、改善センターのホールでは、健康増進・体力づくりのための事業が行われており、集落支援員でもあり、健康運動実践指導者の資格を保有する私は、指導者役として参加させていただき、椅子に座ってのストレッチや軽いレジスタンストレーニングなどの時間を楽しませていただいております。この事業自体が参加者の皆さんにとっての週に一回の活動「拠り所」(拠り所)であるのと同時に、参加者の皆さん自身が町民から見れば、精神的な「拠り所」(拠り所)でもあるのかもしれない。それほどエネルギーに溢れる、頼れる人たちが集まる空間となっていると感じられるからです。この事業に関しては、ここに集まる方々から、今以上にパワーアップしてもらうことが集落支援員の役割と考えます。その理由は、集落も地域もそこに住む人によって



Facebookで活動を発信しています!ぜひチェックしてください!

構成されていて、そこに住む人の課題を解決しようとするとき、エネルギー溢れる仲間が多い方が、単純に有利だと考えられるからです。この事業単体で見たとき、個人個人を単体で見たとき、それはとても小さな拠点(拠り所)ですが、この小さな拠点が全町に広がり、面として見られるようになれば、そのエネルギーは盤石で大きな拠点(拠り所)となります。
毎回20人の方が参加される小さな拠点事業、ここに参加して下さる方々が、町にエネルギーを与える人材、町の精神的柱を担う存在になっていただけよう、集落支援員がしっかりと後方支援させていただきます。小さな「拠り所」が必要な方、「拠り所」になってくださる方、毎週月曜の9時30分に改善センターでお待ちしております。金山町が最上地域の「拠り所」となるよう、まずは金山町を益々元気にしていきたいと思います。

ふんげい

金山杉俳句会報 第四六七回

星川 キエ子
桃の実のようにフワリと夫介護
高台のランチ弾むや翺雲

岸 あき子
虫干しに考が遺愛の山高帽
雨の中祭法被の子等元氣

高橋 洋子
風鈴を風に躍らせ釣忍
蜘蛛揺れて枝から枝へ網を掛け

鶴沼 よし子
紫の供花を育み盆迎ふ
白上布綴らる師の句月明り

阿部 一代
囃子方三年分の玉の汗
金魚鉢祭の後は密になり

栗田 弥超
海鞘艶やかに肩書の無い名刺
神山の試練か昨夜の秋出水

菅越 庄司 けみ子
過ぎりし日々の想ひ出夏去りぬ
送り盆流燈仲良く父と母
山の湖に 蝸の声 燈み渡る

荒屋 阿部 勝子
夏の畑蚊取り線香腰に付け
新盆や仏具磨いて花飾る
梶子の花の匂うる薄月夜

七井町 青柳 キエ子
コロナ禍や三年ぶりの山車祭り
一瞬の夢を 戴く 大花火
闇を裂き音だけ届く遠花火

七日町 柴田 栖静
鼓動鳴り祭り囃子の笛太鼓
風鈴の音色やさしき地藏盆
名曲の流るる夜道を秋の宵

上 台 阿部 一步
秋の天三坂峠に出羽の富士
野分立つ自然猛威の嵐外れ
稔る穂を手に取願ふお田の神

かねやま紅風会